



肺がん、胃がん

本当にがん

食道がん治療の名医・大幸宏幸医師とその手術の様子

後の痛みが少なく回復も早いとされている。モニターに映る画像の範囲が限られ、手術器具の操作に慣れる必要があることから、開胸や開腹の手術よりも一般的には難しいとされている。とはいえ、熟練の外科医が適切に症例を選び、慎重に実施すれば、必ずしも危険な手術ではない。

胃がんや大腸がんでは、腹腔鏡下手術がかなり普及した。全国的に見ても、これらのがんでは、すでに約半数に腹腔鏡下手術が適用されている。今回名前があがった胃がん、大腸がんの医師の多くも腹腔鏡の名手とされる人たちだった。

「がんの手術はあくまで根治と安全が第一。胸腔鏡は従来の開胸手術に比べて熟練が必要で、大出血などへの対応が遅れて致命的な状況になる場合があります。また、開胸といっても昔に比べ、ずいぶん小さな傷で手術できるようになりました。そう考えると、胸腔鏡だけの手術にこだわるメリ

出血量がわずか約百五十CC

肺がんも、胸腔鏡下手術を実施する施設が増えていく。順天堂大学医学部附属順天堂医院の鈴木健司医師も、安全に手術できる患者にはこの手術を適用しているという。ただし、「胸腔鏡にこだわりすぎるのは危険」と警鐘を鳴らす。

など全9分野を専門医が厳選

手術が巧い 外科医リスト

107人

完全保存版

ジャーナリスト 鳥集 徹 + 本誌取材班

とりだまりとある。1966年生まれ。同志社大卒。本誌等に医療関係の記事を多数寄稿。今年5月、医師と製薬会社の癒着(利益相反)の実態を描いた「新薬の罠 子宮頸がん、認知症…10兆円の闇」(小社刊)を上梓。

「リスクの高い手術を手がける外科医なら、誰もが術死を経験することがあります。とはいえ一人でも亡くなれば、次の手術をするのが怖くなり、立ち直るまで数カ月はかかります。患者さんが何人も亡くなっているのに、手術を続けられた感覚が私にはわかりません」

明して、術死が正当化されている。そのため、公になつていないだけなのです」

「胸腔鏡」と「腹腔鏡」の名手たち

調査は、頭頸部がん(舌がん、咽頭がん、喉頭がんなど)、肺がん、食道がん、胃がん、肝胆膵がん(肝がん、胆道がん、膵がん)、大腸がん、乳がん、泌尿器がん(腎がん、膀胱がん、前立腺がんなど)、婦人科がん(子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど)の9分野を対象とした。いずれも、患者数の多いがんだ。

分野	医師名	医療機関 所属・肩書き	所在地・連絡先	特色
肺がん	岡田守人	広島大学病院 呼吸器外科診療科長	広島県広島市南区霞 1-2-3 ☎ 082-257-5555	4センチと1センチの2つの穴での「ハイブリッド胸腔鏡下手術」を開発。縮小手術との組み合わせで機能温存・低侵襲を両立した究極の患者に優しい手術を実施する。
	田中文啓	産業医科大学病院 呼吸器・胸部外科診療科長	福岡県北九州市八幡西区 医生ヶ丘 1-1 ☎ 093-603-1611	進行・多発がんに対しても手術と化学療法・放射線治療を組み合わせ集学的治療を、リスクの高い患者にも胸腔鏡下手術等の体の負担が少ない治療を行う。
	細川正夫	恵佑会札幌病院 消化器外科(病院理事長)	北海道札幌市白石区本通 14- 北 1-1 ☎ 011-863-2101	40年にわたり約3000例の食道がん手術を手がけた。その技術の高さで多くの外科医の尊敬を集める。診断から終末期まで一貫して患者を支える。
	大幸宏幸	国立がん研究センター東病院 食道外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	食道外科の次代を担う逸材として評価が高い。胸腔鏡と腹腔鏡の併用手術を実施。いい状態で社会復帰ができるよう術前・術後のリハビリも重視している。
	宇田川晴司	虎の門病院 消化器外科(上部消化管)部 部長兼副院長	東京都港区虎ノ門 2-2-2 ☎ 03-3588-1111	2006年から胸腔鏡下手術を導入。術後に胃の内容物が逆流しないよう、胃を温存して小腸と大腸の一部を食道の代わりに使う再建方法を取り入れている。
	北川雄光	慶應義塾大学病院副院長・ 外科教授・腫瘍センター長	東京都新宿区信濃町 35 ☎ 03-3353-1211	1996年から胸腔鏡と腹腔鏡による低侵襲手術を実施。全国多施設共同研究食道がんグループ代表。食道がん診療ガイドラインの作成も担当。
	梶山美明	順天堂大学医学部附属順天 堂医院 食道・胃外科教授	東京都文京区本郷 3-1-3 ☎ 03-3813-3111	年間100例以上の手術経験をもとに、どんなに難しい状況でもあきらめない姿勢でのぞむ。縫合不全や反回神経麻痺などの術後合併症発症率は1%前後と極めて低い。
	大杉治司	大阪市立大学医学部附属病 院 第二外科食道病棟教授	大阪府大阪市阿倍野区旭町 1-5-7 ☎ 06-6645-2121	食道がんは誰かが認める。肺の機能温存などを旨とした、体の負担が少ない手術に努める。
	安田卓司	近畿大学医学部附属病院 上部消化管外科診療部長	大阪府大阪狭山市大野東 377- 2 ☎ 072-366-0221	外科、腫瘍内科、消化器内科、放射線治療科の合議制で、個々の患者に最適な治療を提案。早期から超進行の食道がんまでQOLと根治性を限界まで追求する。
	白川靖博	岡山大学病院 消化管外科副診療科長	岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1 ☎ 086-223-7151	手術数は年間約120件で西日本一。その3分の2に胸腔鏡と腹腔鏡を併用した根治術を実施。腫瘍融解ウイルス療法の臨床研究にも取り組む。
食道がん	金平永二	メディカルトピア草加病院 院長・外科診療顧問	埼玉県草加市谷塚 1-11-18 ☎ 048-928-3111	金平内視鏡外科研究所(ELK)を主宰。胃がんでなく、胃GIST、胃粘膜炎腫瘍、肛門から行う直腸がん手術も世界トップレベル。
	木下敬弘	国立がん研究センター東病院 胃外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	腹腔鏡下手術やロボット手術だけでなく、難易度の高い上部胃がんの手術や化学療法で縮小した高度進行胃がんに対するコンパート手術も手がける。
	福永哲	順天堂大学医学部 消化器・低侵襲外科教授(勤 務・同医学部附属浦安病院)	千葉県浦安市富岡 2-1-1 ☎ 047-353-3111	1994年に胃がんの腹腔鏡下手術を開始した日本のパイオニアの一人。手順を踏めば安全かつ確実に行える「福永方式」と呼ばれる手術法を確立した。
	片井均	国立がん研究センター中央 病院 胃外科科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	4人の固定スタッフで年間約400件以上の手術を実施。治す、機能温存、小さな傷の優先度で治療している。手術関連死は過去5年2000例でゼロ。
	小嶋一幸	東京医科歯科大学医学部附 属病院 胃外科科長	東京都文京区湯島 1-5-45 ☎ 03-3813-6111	1999年から胃がんの腹腔鏡下手術を開始。日本有数の手術数。同大低侵襲医学部研究センター長を兼任。腹腔鏡下手術の安全な普及に努める。
	佐野武	がん研有明病院 消化器センター長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	消化器内科と消化器外科が協力し、「消化器センター」として集学的治療を提供。患者の体への負担を考えて、早く出血の少ない手術に努めている。
	稲木紀幸	石川県立中央病院 消化器外科診療部長	石川県金沢市数方東 2-1 ☎ 076-237-8211	治療ガイドライン、患者の年齢、リスクなどを考慮して治療方針を決定。腹腔鏡や胸腔鏡を積極的に導入し、侵襲の少ない手術治療を提供している。
	宇山一朗	藤田保健衛生大学病院 上部消化管外科教授	愛知県豊田市香掛町田楽ヶ窪 1-98 ☎ 0562-93-2111	1997年に胃全摘手術を腹腔鏡下手術で実施した日本のパイオニア。2009年にはいち早く胃がんのロボット手術を実施。その技術向上と発展に努める。
	金谷誠一郎	大阪赤十字病院 第二消化器外科部長	大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎 町 5-30 ☎ 06-6774-5111	胃がんの腹腔鏡下手術に10年以上の実績。原則として進行がんも含めた全症例に腹腔鏡下手術を実施。食道がんの胸腔鏡、腹腔鏡下手術も手がける。
	胃がん	遠藤俊輔	自治医科大学附属病院 呼吸器外科教授	栃木県下野市薬師寺 3311-1 ☎ 0285-44-2111
鈴木健司		順天堂大学医学部附属順天 堂医院 呼吸器外科教授	東京都文京区本郷 3-1-3 ☎ 03-3813-3111	国内有数の肺がん手術のハイボリュームセンター。「安全第一、そして根治」をモットーとしつつ、糖尿病や心臓病を抱えるハイリスク患者の手術にも挑む。
渡辺俊一		国立がん研究センター中央 病院 呼吸器外科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	同科の肺がん切除数は日本最多。胸腔鏡を併用し、8センチ程度の小開胸下に低侵襲かつ質の高い手術を心がける。
奥村栄		がん研有明病院 呼吸器センター長・呼吸器 外科部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	呼吸器外科で年間約500例の手術を行い、肺がんは約300例と国内有数の手術数で、約6割に胸腔鏡下手術を適用。転移性肺腫瘍の手術も年間約100例と多く、経験が豊富。
文敏景		がん研有明病院 呼吸器外科副部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	奥村医師らとともに、同院呼吸器外科の医療を担う一人。肺がんの胸腔鏡下手術では国内トップクラスの技術と実績。
中山治彦		神奈川県立がんセンター 呼吸器外科・副院長	神奈川県横浜市旭区中尾 2-3-2 ☎ 045-520-2222	伊藤宏之呼吸器外科部長とともに肺がん診療に係る専門医から高く評価されている。とくに、安全確実な操作で根治性を追求する手術手技には定評がある。
伊達洋至		京都大学医学部附属病院 呼吸器外科教授	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	肺移植のスペシャリストとして著名。血管再建や気管支再建など肺移植で培った技術を生かし、リスクの高い進行肺がんの手術にも積極的に取り組んでいる。

推薦の多かった「腕のいい外科医」リスト

分野	医師名	医療機関 所属・肩書き	所在地・連絡先	特色
頭頸部がん	松浦一登	宮城県立がんセンター 頭頸部外科診療科長	宮城県名取市愛島塩手字野田 山 47-1 ☎ 022-384-3151	発声や嚥下、呼吸などの機能温存や再建手術に積極的に取り組む。がんを集中的に叩く超選択的動注化学放射線療法も国内有数の実績。
	鎌田信悦	千葉徳洲会病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科セ ンター長	千葉県船橋市高根台 2-11-1 ☎ 047-466-7111	元癌研究会附属病院(現・がん研有明病院)頭頸部部長。40年で4000例と国内屈指の手術執刀数。一人一人と十分話し合い最善の治療を提供する。
	林隆一	国立がん研究センター東病院 副院長・頭頸部外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	頭頸部がんの病床数が約80床と全国一。頭頸部内科、放射線治療科、形成外科、消化器内科等と連携して集学的治療を行う体制が構築されている。
	岸本誠司	亀田総合病院 頭頸部外科部長	千葉県鴨川市東町 929 ☎ 04-7092-2211	東京医科歯科大学教授在任中を含め40年で8000例以上の頭頸部がん患者を診療。顔面深くにある頭蓋底腫瘍の安全な手術手技の開発に尽力してきた。
	吉本世一	国立がん研究センター中央 病院 頭頸部腫瘍科科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	歯科・放射線治療科・形成外科など関連科と密接に連携。嚥下障害の専門看護師や言語療法士、栄養士などもチームを組み総合的な医療を提供している。
	朝蔭孝宏	東京医科歯科大学医学部附 属病院 頭頸部外科科長	東京都文京区湯島 1-5-45 ☎ 03-3813-6111	難易度の高い頭頸部がんを、脳神経外科、形成・美容外科、放射線診断科、放射線治療科、食道外科、血管内治療科などと協力して治療している。
	川端一嘉	がん研有明病院 頭頸部部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	根治と機能温存の両立を考えて治療。早期の喉頭がんや咽頭がんにはなるべく傷の小さな治療を採用。進行がんは他科と協力して拡大手術を積極的に行う。
	長谷川泰久	愛知県がんセンター中央病 院 副院長兼頭頸部外科部長	愛知県名古屋市中千種区鹿子殿 1-1 ☎ 052-762-6111	東海地方有数の頭頸部がん治療施設で、年間約500件の手術実績。患者とのコミュニケーションを重視し、最新かつ信頼される医療提供を目指す。
	藤井隆	大阪府立成人病センター 耳鼻咽喉科主任部長	大阪府大阪市東成区中道 1-3-3 ☎ 06-6972-1181	年間手術数約400件の関西有数の治療実績。根治や機能温存だけでなく、それぞれの患者が望む最適な医療を提供しよう心がけている。
	丹生健一	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科診療 科長	兵庫県神戸市中央区楠町 7-5-2 ☎ 078-382-5111	根治と機能温存の両立を目指し、経口的切除・化学放射線療法・超選択的動注化学療法・内視鏡下頭蓋底手術など、症例に応じて最適な治療法を提供する。
肺がん	遠藤俊輔	自治医科大学附属病院 呼吸器外科教授	栃木県下野市薬師寺 3311-1 ☎ 0285-44-2111	肺がんの胸腔鏡下手術に積極的に取り組む。進行がんに対しても、術前に化学療法や放射線で病巣を小さくしてから手術を行い、好成績をあげている。
	鈴木健司	順天堂大学医学部附属順天 堂医院 呼吸器外科教授	東京都文京区本郷 3-1-3 ☎ 03-3813-3111	国内有数の肺がん手術のハイボリュームセンター。「安全第一、そして根治」をモットーとしつつ、糖尿病や心臓病を抱えるハイリスク患者の手術にも挑む。
	渡辺俊一	国立がん研究センター中央 病院 呼吸器外科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	同科の肺がん切除数は日本最多。胸腔鏡を併用し、8センチ程度の小開胸下に低侵襲かつ質の高い手術を心がける。
	奥村栄	がん研有明病院 呼吸器センター長・呼吸器 外科部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	呼吸器外科で年間約500例の手術を行い、肺がんは約300例と国内有数の手術数で、約6割に胸腔鏡下手術を適用。転移性肺腫瘍の手術も年間約100例と多く、経験が豊富。
	文敏景	がん研有明病院 呼吸器外科副部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	奥村医師らとともに、同院呼吸器外科の医療を担う一人。肺がんの胸腔鏡下手術では国内トップクラスの技術と実績。
	中山治彦	神奈川県立がんセンター 呼吸器外科・副院長	神奈川県横浜市旭区中尾 2-3-2 ☎ 045-520-2222	伊藤宏之呼吸器外科部長とともに肺がん診療に係る専門医から高く評価されている。とくに、安全確実な操作で根治性を追求する手術手技には定評がある。
	伊達洋至	京都大学医学部附属病院 呼吸器外科教授	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	肺移植のスペシャリストとして著名。血管再建や気管支再建など肺移植で培った技術を生かし、リスクの高い進行肺がんの手術にも積極的に取り組んでいる。

されている。なかでも最高難度とされるのが、「肝門部胆管がん」。この手術は、肝機能を損なわないうりぎりまで肝臓を大きく切り取るうえ、肝動脈や門脈(腸から肝臓に栄養を運ぶ血管)を切除・再建する必要がある。その手術で、これまで八百十五例と世界トップレベルの実績を持つのが、名古屋大学医学部附属病院の榎野正人医師だ。「こうした最高難度の手術を安全にできる病院は全国でも数カ所です。すべての症例が手術可能ではありませんが、他施設で難しいと言われた手術も、当院のように実績のある病院なら手術できる可能性があります。ですから肝臓がんの場合には絶対に妥協せず、しかるべき病院で手術を受けなければなりません(榎野医師)」。開腹でさえ難しいこの肝門部胆管がんの手術を、群馬と千葉の医師は、なんと腹腔鏡で行っていた。しかも保険適用になっていたのだ。実は肝臓外科

半。腹腔鏡による腹部の手術と再建が約一時間半で、トータル出血量は約百五十ccとごくわずか。再建が始まってからは、あつという間に終わった印象だった。こう書くとも簡単に思われるかもしれないが、食道がん手術は一般的に合併症が四割以上に起こり、リスクが高い。とくに恐いのが縫合不全や肺炎だ。これらはときに命取りとなり、在院死亡率も全国平均で三%を超える。大杉医師が言う。「私どもの施設では、ここ十年在院死亡率は一%以下です。この割合は手術数の多い施設に比べ、少ない施設の方が高いという結果が出ています。一人の術者が少なくとも、年間二十例以上は手術しないと腕は上がりません。ですから食道がん手術を受ける際には、執刀医の年間手術数や、自施設の合併症率、在院死亡率などについて、事前に説明を受けるべきです」。肝臓がんも、一歩間違えると命に関わる合併症が起こるため、消化器外科の中でもとくに難しい手術と

大腸がん	伊藤雅昭	国立がん研究センター東病院 大腸外科長	千葉県柏市柏の葉 6-5-1 ☎ 04-7133-1111	大腸がんの中でも直腸がん手術の比率が高いのが特徴で、根治性だけでなく排便・排尿・性功能をできるだけ残す機能温存手術に取り組んでいる。
	福永正氣	順天堂大学医学部附属浦安病院 副院長兼外科診療部長	千葉県浦安市富岡 2-1-1 ☎ 047-353-3111	1993年、いち早く大腸がんの腹腔鏡下手術を開始、手術数は2000例を超える。単孔式腹腔鏡下手術や肛門温存手術など先進的な手術も積極的に導入している。
	黒柳洋弥	虎の門病院 消化器外科(下部消化管)部長	東京都港区虎ノ門 2-2-2 ☎ 03-3588-1111	ほぼ全例に腹腔鏡下手術を実施。総合病院の長所を生かし、合併症がある患者も他科と連携して対応。放射線や化学療法を駆使した肛門温存にも取り組む。
	福長洋介	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	大腸がんの腹腔鏡下手術に黎明期から取り組んできた。「大腸がんは手術で治す」をモットーに全てのがんを取りきる心構えで手術にのぞむ。
	小西毅	がん研有明病院 消化器センター大腸外科副部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	年間700件以上と日本一の手術数。95%以上を腹腔鏡で手術。高度進行大腸がんも、化学療法・放射線と組み合わせ、完治と肛門温存を目指す。
	國場幸均	聖マリアンナ医科大学横浜 市西部病院 消化器一般外科教授(副院長)	神奈川県横浜市旭区矢指町 1197-1 ☎ 045-366-1111	草創期から腹腔鏡下手術に取り組む。最新の低侵襲手術である直腸がん NOSE 手術などを実施。進化した手術を定型化して安全に普及させるよう努めている。
	渡辺昌彦	北里大学病院 一般・消化器外科長	神奈川県相模原市南区北里 1-15-1 ☎ 042-778-8111	1992年に国内で初めて腹腔鏡による大腸がん手術を執刀した第一人者。「最先端の医療技術を最高のチームワークで」がモットー。
	絹笠祐介	静岡県立静岡がんセンター 大腸外科部長	静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007 ☎ 055-989-5222	腹腔鏡下手術に積極的で、直腸がんのロボット手術では日本一の実績を持つ。少ない合併症等、優れた手術成績を有し、進行がんには拡大手術も行う。
	上原圭介	名古屋大学医学部附属病院 消化器外科一講師	愛知県名古屋市中区鶴舞町 65 ☎ 052-741-2111	次代を担う大腸外科医として評価が高い。腹腔鏡下手術の腕に定評があるだけでなく、ロボット手術にも2010年8月から取り組んでいる。
	奥田準二	大阪医科大学附属病院がんセンター 先端医療開発部門(消化器外科)特務教授	大阪府高槻市大町 2-7 ☎ 072-683-1221	腹腔鏡下手術のバイオニアの一人。年間500件以上の手術のうち6割が難易度の高い直腸がん。より質の高い手術を目指し、立体視できる3D腹腔鏡に取り組む。
	坂井義治	京都大学医学部附属病院 消化管外科部長	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	腹腔鏡下手術ばかりでなく、直腸がんにはロボット手術も実施。放射線、化学療法も併用し、人工肛門の回避と再発を減らす治療を目指す。
	長谷川傑	京都大学医学部附属病院 消化管外科講師	京都府京都市左京区聖護院川 原町 54 ☎ 075-751-3111	坂井教授とともに腹腔鏡下手術のエキスパートとして評価されている。2011年9月からロボット手術も導入。体の負担の少ない手術の開発に取り組む。
	関本貢嗣	国立病院機構大阪医療センター 副院長	大阪府大阪市中央区法円坂 2-1-14 ☎ 06-6942-1331	大腸がんのほとんどに腹腔鏡下手術を実施し、直腸がんはできるだけ自然肛門と神経の温存を目指す。超進行がんや再発がんもあきらめない治療を実践する。
	竹政伊知朗	大阪大学医学部附属病院 消化器外科(下部消化管、肝、胆)診療局長	大阪府吹田市山田丘 2-15 ☎ 06-6879-5111	大腸がんの腹腔鏡下手術を担う次代のリーダーの一人。単孔式手術からロボット手術まで高い技術と豊富な経験を武器に、最良の低侵襲治療法を提案する。
乳がん	高橋将人	国立病院機構北海道がんセンター 乳腺外科統括診療部長	北海道札幌市白石区菊水 4 条 2-3-54 ☎ 011-811-9111	科学的根拠に基づく最新で最適な標準治療を提供。遺伝性乳がんや転移性再発乳がんの治療に力を入れる。全国または世界規模の臨床試験にも取り組む。
	長谷川善枝	弘前市立病院 乳腺外科・医療局長	青森県弘前市大字大町 3-8-1 ☎ 0172-34-3211	診断から手術、術後化学療法、進行再発がんまで一貫して対応。科学的根拠に基づく標準治療を重視し、個々の患者に過不足のない治療を徹底する。
	鈴木正人	国立病院機構千葉医療センター 乳腺外科医長(乳腺センター長)	千葉県千葉市中央区椿森 4-1-2 ☎ 043-251-5311	科学的根拠を重視した集学的治療を実施。個々の患者の状況や希望も加味して、満足度と質の高い医療を提供できるように努力している。
	石川孝	東京医科大学病院 乳腺科学分野主任教授	東京都新宿区西新宿 6-7-1 ☎ 03-3342-6111	正確な手術による治療切除を重視しながら、次世代の治療を目指した術前化学療法の研究および形成外科との密接な連携で根治性と整容性を追求している。
	大野真司	がん研有明病院 乳腺センター長(院長補佐)	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	今年4月がんに移籍。九州がんセンター時代から、全人的なチーム医療が高く評価されていた。最新の科学的データの発信や地域医療連携の構築を目指す。

操作ボックスに座り、立体画像を覗き込みながら指や足を使って遠隔操作する。長らく保険適用外だったが、一二年四月に前立腺がんの手術に限って保険適用となった。それを機に、全国でこのロボット手術の装置を導入する施設が一気に増えた。東海大学医学部付属病院の寺地敏郎医師(泌尿器がん)は、「骨盤の深い部分でも手術器具を自由な角度で操作することができ、手ぶれ防止機能もついているので、前立腺がんや婦人科がんの手術に向いている」とメリットを高く評価する。ただし、心配もあると打ち明ける。

「前立腺がんの腹腔鏡下手術も〇二年頃から手がける医師が増えました。しかし、あまりの急増ぶりに危険を抱いていた矢先、〇二年十一月に東京慈恵会医科大学附属青戸病院(当時)で死亡事故が起こったのです。腹腔鏡によるがんの手術に慣れていないのに、功を焦ってロボットに手を出すと危険です。実績のある医師の指導を受けながら、慎重

胃がん	能城浩和	佐賀大学医学部附属病院 一般・消化器外科教授	佐賀県佐賀市鍋島 5-1-1 ☎ 0952-31-6511	胃がん・食道がんのほぼ全てに腹腔鏡及び胸腔鏡下手術を適用。国立大学でいち早くロボット手術を導入。がんの根治性を担保した治療を心がける。
	永井英司	九州大学病院 臨床・腫瘍外科准教授	福岡県福岡市東区馬出 3-1-1 ☎ 092-641-1151	胃がんに対して積極的に腹腔鏡下手術を実施し、術後の痛みの軽減や入院期間の短縮に努める。食道がんにも胸腔鏡と腹腔鏡の手術を実施する。
肝胆膵がん	山本順司	防衛医科大学校病院 外科 3: 肝・胆・膵外科診療部長	埼玉県所沢市並木 3-2 ☎ 04-2995-1211	「協調」「高質」「創造」を三本柱とする誠実な医療と、外科解剖に精通し、画像診断に基づいた正確な手術が特徴。転移性肝がん、肝門部胆管がん、膵がんに対応。
	宮崎勝	千葉大学医学部附属病院 肝胆膵外科部長	千葉県千葉市中央区玄鼻 1-8-1 ☎ 043-222-7171	高難度の胆道がん及び膵臓がんの外科切除の専門家。高度進行がんにたいしても化学療法を併用するなど、消化器内科と協力する。
	山本雅一	東京女子医科大学病院 消化器病センター長	東京都新宿区河田町 8-1 ☎ 03-3353-8111	他院では難しい高難度の手術に取り組む。肝がん、胆のうがん、膵がんの手術数は日本有数。再発患者も看取りまでサポートする。
	江川裕人	東京女子医科大学病院 消化器病センター教授	東京都新宿区河田町 8-1 ☎ 03-3353-8111	生体肝移植の第一人者で、京都大学時代から通算1300例。移植に不可欠な血管再建技術などを駆使して、高難度の肝胆膵がん手術も手がける。
	國土典宏	東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科・人工臓器移植外科部長	東京都文京区本郷 7-3-1 ☎ 03-3815-5411	他院で手術が難しいと言われた患者も、根治できる可能性があれば手術を実施。安全性も重視しており、肝がんの手術死亡率は0.2%と極めて低い。
	齋浦明夫	がん研有明病院 肝胆膵外科部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	大腸がん肝転移や膵がんの手術に積極的に取り組む。他院で難しいと言われたがんでも外科的な立場から可能性を最後まで追求する。
	高山忠利	日本大学医学部附属板橋病院 消化器外科部長	東京都板橋区大谷口上町 30-1 ☎ 03-3972-8111	世界で初めて肝臓の最も奥深い部分で発生したがんの手術(肝尾状葉単独全切除手術)に成功した。駅前献血の採血量以下に出血を抑えるのがモットー。
	遠藤格	横浜市立大学附属病院 消化器・肝移植外科部長	神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9 ☎ 045-877-2800	二度のアメリカ留学の経験を生かして医療現場に臨む。同院は、進行がんに対しては徹底郭清を伴う根治術により全国有数の良好な治療実績がある。
	上坂克彦	静岡県立静岡がんセンター 副院長兼肝胆膵外科部長	静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007 ☎ 055-989-5222	日本有数の肝胆膵外科施設の一つ。他院で難しいと言われた症例も根治の可能性があれば手術する。生存率向上を目指した膵がんの化学療法にも取り組む。
	名木の柳野正人	名古屋大学医学部附属病院 消化器外科一教授	愛知県名古屋市中区鶴舞町 65 ☎ 052-741-2111	最高難度とされる胆道がん(肝門部胆管がんなど)に関して世界トップの手術数と実績を誇る。「メスの限界を極める」をモットーに肝胆膵がん手術に挑む。
	久保正二	大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵外科病棟教授	大阪府大阪市阿倍野区旭町 1-5-7 ☎ 06-6645-2121	西日本有数の肝がん手術数。腹腔鏡による肝切除や膵切除にも取り組む。久保医師は、印刷用化学物質による胆道がん発症の調査研究・治療でも知られる。
	永野浩昭	山口大学医学部附属病院 肝胆膵外科部長	山口県宇部市南小串 1-1-1 ☎ 0836-22-2111	大阪大学で肝胆膵外科の実績を積み、今年3月に赴任。年間150例以上と国内有数の手術数。高難度の進行胆のうがんや肝門部胆管がんにも取り組む。
	江口晋	長崎大学病院 第二外科教授	長崎県長崎市坂本 1-7-1 ☎ 095-819-7200	米国やオランダで腕を磨いた移植・再生医療のエキスパート。2012年に44歳(当時)の若さで教授に就任。移植技術を生かし、高難度手術に取り組む。
	大腸がん	北城秀司	KKR 札幌医療センター斗南病院 鏡視下手術センター長	札幌市中央区北 1 条西 6 丁目 ☎ 011-231-2121
大塚幸喜		岩手医科大学附属病院 外科講師	岩手県盛岡市内丸 19-1 ☎ 019-651-5111	1997年から腹腔鏡下手術を開始。昨年未だに同手術数は1500例を超えた。患者個々の病態、状態に合わせてベストな治療を目指している。
内藤剛		東北大学病院 胃腸外科准教授	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 ☎ 022-717-7000	進行がんも積極的に腹腔鏡下手術を検討。また、局所高度進行がんや再発がんもあきらめず、手術・化学療法・放射線を組み合わせた治療に取り組む。
山口茂樹		埼玉医科大学国際医療センター 消化器病センター長	埼玉県日高市山根 1397-1 ☎ 042-984-4111	結腸・直腸とも8割以上を腹腔鏡で実施。同センターは、内科、外科問わず、その臓器の専門家が全員で相談しながら患者をサポートする体制を構築。

医の間では、以前から「いつか腹腔鏡でまずい事態が起こるのでは」とささやかかれていたという。別の肝胆膵外科医が打ち明ける。

「二〇一〇年四月、肝がんの部分切除等に限って腹腔鏡下手術が保険適用になりました。そのとたん、この手術に関する発表が学会で急増したのです。なかには『こんなすごい手術ができるのは自分だけ』と、あらかも自慢するような内容の発表もありました。しかし、保険で決められた範囲を超える手術が多く、手術の適用や安全性に疑問を感じるものが多々ありました。こうした声があったにもかかわらず、なぜ事故を防げなかったのか。学会や施設の関係者は猛省する必要があるのでないだろうか。

腹腔鏡下手術からさらに一歩進んで、近年トピックスになっているのが「ロボット手術」だ。細長い手術器具を患者の体内に挿入するのは腹腔鏡下手術と同じだが、その操作を人の代わりにロボットアームが行う。執刀医は手術台から離れた

婦人科がん	杉山徹	岩手医科大学附属病院 産婦人科診療科部長	岩手県盛岡市内丸 19-1 ☎ 019-651-5111	卵巣がんの研究で定評がある。関連する診療科と連携して最先端の薬物療法を実施。自身も肺がんを患った経験から患者中心の医療を心がける。
	新倉仁	東北大学病院 婦人科部長	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 ☎ 022-717-7000	日本でも有数の年間 200 例を超える婦人科がん手術を実施。リンパ浮腫を予防するセンチネルリンパ節生検や排尿障害を防ぐ神経温存手術に取り組む。
	加藤友康	国立がん研究センター中央病院 婦人腫瘍科部長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	患者に優しい、がんには厳しい医療を心がける。放射線治療、抗がん剤専門、婦人科病理専門チームと協力して治療にあたる。
	岡本愛光	東京慈恵会医科大学附属病院 ウィメンズクリニック（婦人科）診療科部長	東京都港区西新橋 3-19-18 ☎ 03-3433-1111	「すべての分野で技量を高め、世界の女性を幸せにする」がモットー。科学的根拠に基づく最新治療を提供。臨床試験や新薬治験にも積極的に参加している。
	寺内文敏	東京医科大学病院 産科・婦人科教授	東京都新宿区西新宿 6-7-1 ☎ 03-3342-6111	進行および再発卵巣がんに対して残存病変のない完全摘出術を実施し、予後（治療後の経過）の改善を認めている。
	金尾祐之	がん研有明病院 婦人科部長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	悪性腫瘍に対しても積極的に腹腔鏡下手術を実施。これまで 2500 例以上を経験し、日本屈指の名手と評価される。
	平嶋泰之	静岡県立静岡がんセンター 婦人科部長	静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007 ☎ 055-989-5222	複数のスタッフで議論して治療方針を決定。患者の理解を得られるよう説明にも時間をかける。手術成績を左右するリンパ節郭清の技術向上に取り組む。
	舟本寛	富山県立中央病院 産科産婦人科部長	富山県富山市西長江 2-2-78 ☎ 076-424-1531	富山県の婦人科がんの中核病院。舟本医師は腹腔鏡下手術の腕に定評があり、良性腫瘍だけでなく子宮体がんなど悪性腫瘍の一部にもこの手術を実施。
	田畑務	三重大学医学部附属病院 産科婦人科副科長	三重県津市江戸橋 2-174 ☎ 059-232-1111	婦人科がん手術の腕に定評があり、手術書も執筆。その中でも難しい広汎子宮全摘を多くの婦人科医が着実・安全に行えるよう手技の普及に努めている。
	伊藤公彦	関西ろうさい病院 産婦人科部長	兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69 ☎ 06-6416-1221	婦人科がんの中でもとくに卵巣がんの専門家として知られ、臨床研究にも取り組む。患者に利益とリスクを十分に説明し、納得の上でチーム治療を進める。
	安藤正明	倉敷成人病センター 婦人科部長（副院長）	岡山県倉敷市白楽町 250 ☎ 086-422-2111	婦人科がんの腹腔鏡下手術を確立したパイオニア。その技術を学ぼうと多くの婦人科医が研修に訪れる。高難度手術にも取り組み、全国から患者が集まる。
	齋藤俊章	九州がんセンター 婦人科部長	福岡県福岡市南区野多目 3-1-1 ☎ 092-541-3231	患者・家族の気持ちを大事に診療することを心がける。発生部位、組織学的特徴、拡がりなど厳格な診断に基づき、質の高い医療の提供を目指す。
	片瀬秀隆	熊本大学医学部附属病院 婦人科・産科科長	熊本県熊本市中央区本庄 1-1-1 ☎ 096-344-2111	日本の婦人科がん治療をリードする一人で、治療の決定にもっとも重要な病理組織診断にも精通。自ら顕微鏡をみて個々の症例にベストの方針を選択する。
小林裕明	鹿児島大学病院 産科・婦人科副科部長	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1 ☎ 099-275-5111	子宮頸がんの妊娠性温存手術（広汎子宮頸部摘出術）は世界有数の執刀数。他にセンチネルリンパ節生検やロボット手術などが縮小手術のエキスパート。	

*大学病院の医師の肩書きは原則として病院での名称とした。また、胃がんだけでなく食道がんなど複数の疾患（良性疾患を含む）を手がけている医師も多いが、表ではその医師が主に評価されている領域の疾患で分類した。

「私は手術の踏ん切りがついて、がんを治すことが第一と強調した。とくに重要なのが、術前のシミュレーションだ。未熟な医師は段取りがきちんとしていないため、出血など不測の事態にうまく対応できず、手術時間がかかってしまう。それが成績の差となって現れてくるという。広島大学病院の岡田守人医師（肺がん）が話す。「トップレベルの外科医は、患者さんの病態と解剖、それに対する手術の組み立てが頭に入っているのだから、自信を持って患者さんに説明してくれるはずだ。もし解りにくい説明や患者さんからの質問にしろもどろになるようなら、自信のない証拠。それが、腕のいい外科医を見極める一つの目安になるかもしれない」

また、何人もの医師が、主治医以外の医師に意見を聞く「セカンドオピニオン」の重要性を強調した。静岡県立静岡がんセンターの平嶋泰之医師（婦人科）はこう話す。

「導入していくべきです」この懸念が、米国では現実のものとなっている。一三年九月九日のニューヨークタイムズの記事によると、〇〇年一月から一二年八月の間に、米国ではロボット手術に関連する損傷が百七十四件、死亡が七十一例あった。さらに、死亡事例の約三分の一が婦人科の手術で、損傷の四三％が子宮摘出に伴うものだった。

実は日本の婦人科では、子宮筋腫など良性疾患に対する腹腔鏡下手術は普及したものの、がんに対しては諸外国に比べ導入が大幅に遅れた。昨年ようやく子宮体がんに対する腹腔鏡下手術が保険適用となったが、これを飛ばして一気にロボット手術にまで進めようという。そのメリットを安全に享受するためにも、腹腔鏡やロボット手術の実績がある医師の下で受けるべきだろう。

今回の取材で共通していたのは、手術が巧いと評される医師ほど、新しい技術の評価に慎重なことだった。多くの医師が、安全を

「手術は命を預ける行為です。ですから医師と話してみても『この人に任せよう』と思えなければ、そこで手術を受けるのはやめたほうがいいでしょう」

後悔のないがん手術を受けるために、本物の「外科医」たちの言葉をかみしめてほしい。

乳がん	中村清吾	昭和大学病院 プレストセンター長	東京都品川区旗の台 1-5-8 ☎ 03-3784-8000	日本の乳がん治療・研究を引っ張るリーダーの一人。多職種チームによる患者中心の医療を提供。遺伝性乳がん・卵巣がんのカウンセリングにも取り組む。
	津川浩一郎	聖マリアンナ医科大学病院 乳腺・内分泌外科診療部長	神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1 ☎ 044-977-8111	リンパ浮腫の予防につながる「センチネルリンパ節生検」の基礎をつくった一人。原発性乳がんの手術は年間約 700 例。心身両面でのサポートに努める。
	岩田広治	愛知県がんセンター中央病院 副院長兼乳腺科部長	愛知県名古屋市中区千種区鹿子殿 1-1 ☎ 052-762-6111	東海地区を代表する乳がん診療の拠点。乳がんの診断、初期治療（手術、薬物療法）、再発治療、緩和医療まで幅広く一貫した治療を心がける。
	玉木康博	大阪府立成人病センター 乳腺・内分泌外科主任部長	大阪府大阪市東成区中道 1-3-3 ☎ 06-6972-1181	乳房同時再建や内視鏡手術などで、根治とともに傷や変形が目立たない治療を目指す。進行がんは術前の薬物療法で腫瘍を縮小させ、手術できるよう努める。
	増田慎三	国立病院機構大阪医療センター 外科医長・乳腺外科科長	大阪府大阪市中央区法円坂 2-1-14 ☎ 06-6942-1331	「一人一人に適した乳がん診療と研究で女性を救う」を目標に掲げる。標準治療のみならず、最新の情報に基づく一歩先の医療をチームで提供する。
	大谷彰一郎	広島市立広島市民病院 乳腺外科部長	広島県広島市中区基町 7-33 ☎ 082-221-2291	1500 例の原発性乳がん手術経験を基に、さらに根治性と整容性を追求した手術を実施。先進医療 B としてラジオ波焼灼療法も行う。
	光山昌珠	北九州市立医療センター 乳腺甲状腺外科（名誉院長・理事）	福岡県北九州市小倉北区馬借 2-1-1 ☎ 093-541-1831	日本の乳がん医療の発展に貢献してきた功労者の一人。根治性、機能性、整容性を求めた乳がん手術、科学的根拠に基づいた個別治療をモットーとする。
	田中真紀	JCHO久留米総合病院 院長	福岡県久留米市柳原町 21 ☎ 0942-33-1211	2002 年全国に先駆け女性医師による「女性総合診療科なでしこ」を開設。外科医、病理医、看護師、放射線技師、検査技師などチーム一丸で乳がん患者を支える。
	西村令喜	くまもと森都総合病院乳腺センター 副院長	熊本県熊本市中央区新屋敷 1-17-27 ☎ 096-364-6000	熊本市市民病院時代から県下最多の乳がん手術を実施。がん細胞の生物学的特性を調べ、個々人に最適な治療を選択。常に患者の立場を考えた医療を心がける。
	上尾裕昭	うえお乳腺外科 院長	大分県大分市羽屋 188-2 ☎ 097-514-0025	科学的データに基づく「最新の情報」「最善の選択」「最小のストレス」をスローガンに、癒しと温もりの空間を目指したチーム医療に取り組む。
	喜島祐子	鹿児島大学病院 乳腺・甲状腺外科講師	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1 ☎ 099-275-5111	腫瘍の大きさ・広がり・位置を診断し、体型・乳房の大きさ・形・下垂の程度によって手術法を選択。腫瘍因子・患者因子から適切な治療法を選ぶ。
	相良安昭	相良病院 乳腺科部長・研究教育センター長	鹿児島県鹿児島市松原町 3-31 ☎ 099-224-1800	乳がんの診療・研究における若手リーダーの一人として評価が高い。科学的根拠に基づいた専門的知識と高い技術を提供しよう努めている。
	荒井陽一	東北大学病院 泌尿器科教授	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 ☎ 022-717-7000	泌尿器がんの腹腔鏡下手術をいち早く取り入れた一人。現在、前立腺がんの多くをロボットで手術している。また性機能など機能温存にも努めている。
川島清隆	栃木県立がんセンター 泌尿器科 第二病棟部長	栃木県宇都宮市陽南 4-9-13 ☎ 028-658-5151	傷が小さく負担の少ないミニマム創手術を実施。局所進行がんやハイリスク症例に対し、根治性向上を目指した拡大前立腺全摘術に取り組んでいる。	
額川晋	東京慈恵会医科大学附属病院 泌尿器科診療部長	東京都港区西新橋 3-19-18 ☎ 03-3433-1111	腹腔鏡下手術の実績が豊富。港区の診療所と協力して診療する前立腺がん地域医療連携を構築。最新・最高水準、かつ信頼性と満足度の高い医療を目指す。	
木原和徳	東京医科歯科大学医学部附属病院 泌尿器科科長（病院長）	東京都文京区湯島 1-5-45 ☎ 03-3813-6111	単一かつ最小の傷で手術するミニマム創内視鏡手術を開発。術野を立体視できるヘッドマウントディスプレイを活用した最先端手術の開発にも取り組む。	
寺地敏郎	東海大学医学部附属病院 泌尿器科診療科長	神奈川県伊勢原市下糟屋 143 ☎ 0463-93-1121	京都大学時代の 1999 年に日本で初めて前立腺がんの腹腔鏡下手術を実施。「最先端の技術と思いやりの診療」をモットーにロボット手術にも取り組む。	
松田公志	関西医科大学附属枚方病院 腎泌尿器外科部長（教授）	大阪府枚方市新町 2-3-1 ☎ 072-804-0101	泌尿器がん（前立腺がん、腎がんなど）に対して、いち早く腹腔鏡下手術を導入した。前立腺がんのロボット手術も年間症例数が 100 例を超える。	
川喜田睦司	神戸市立医療センター中央市民病院 泌尿器科部長	兵庫県神戸市中央区港島南町 2-1-1 ☎ 078-302-4321	進行がんには根治を目指した拡大手術を行う一方、通常なら開腹になるような症例でも腹腔鏡下手術を積極的に実施。ロボット手術も数多く手がける。	

「手術は命を預ける行為です。ですから医師と話してみても『この人に任せよう』と思えなければ、そこで手術を受けるのはやめたほうがいいでしょう」

後悔のないがん手術を受けるために、本物の「外科医」たちの言葉をかみしめてほしい。